



近畿大学

“オール近大”川俣町発・復興人材育成プロジェクト

事業概要

- 川俣町とのこれまでの連携蓄積をもとに、総合大学としての研究力・教育力・発信力を活かしつつ、近畿大学の総力を挙げて、“オール近大”で事業を実施する
- 5つの重点分野（A：農業・食、B：原子力・除染・リスクコミュニケーション、C：観光、D：集落復興・コミュニティ再生、E：SDGs）を設定し、川俣町を拠点に、学生、地域関係者の双方を対象とした教育研究プログラムを開発し、小中学生～社会人までの様々なターゲットに対して適用（実施）する

市町村との連携体制の構築、及び、5年間の人材育成目標

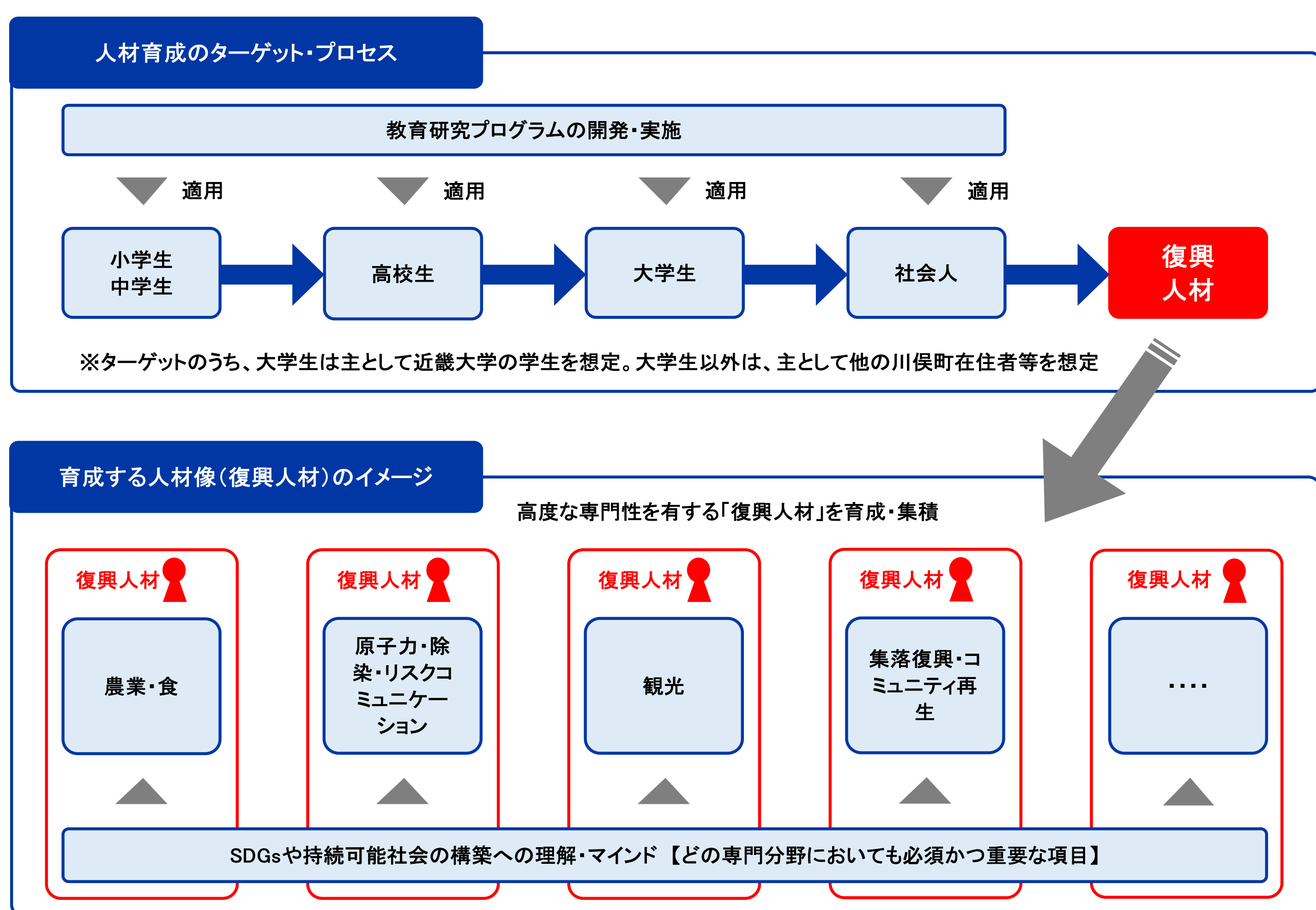
【連携体制】

- 「川俣町発 復興人材育成検討会」の開催等を通じて、川俣町関係者（役場、事業者、住民、学校関係者 等）との連携体制を構築する

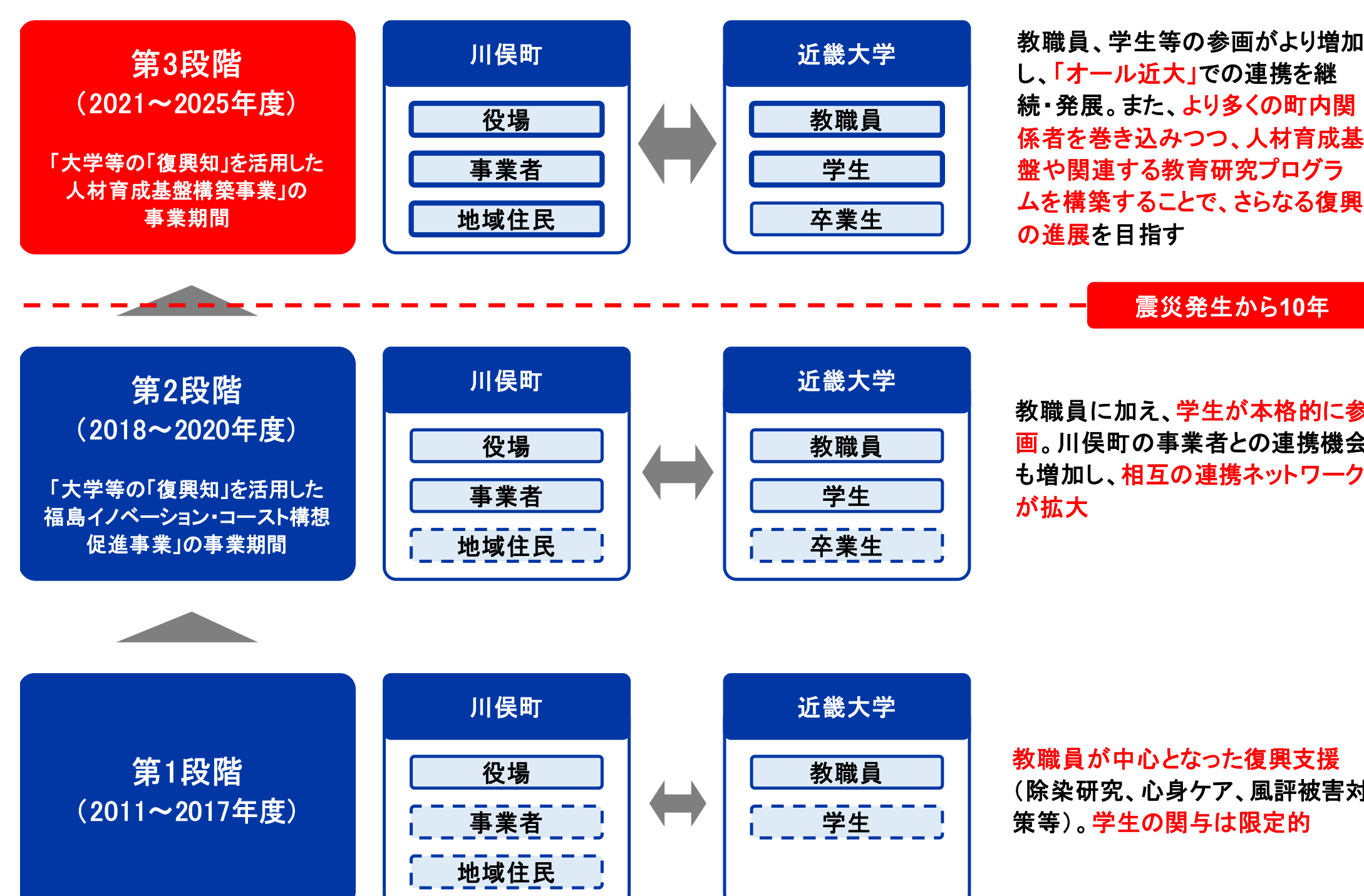
【人材育成目標】

- a)学生、b)地域関係者の双方を対象とした教育研究プログラムを開発し、様々なターゲットに対して適用（実施）する
- SDGsや持続可能社会の構築への理解・マインドを有し、かつ、震災復興や福島イノベーション・コースト構想の実現に寄与する多種多様な専門性を有する未来志向の「復興人材」の育成・集積を図る

人材育成のターゲット・プロセスと育成する人材像（復興人材）のイメージ



川俣町・近畿大学の連携による復興関連活動の進展



今年度（2022年度）までの活動内容と課題

1 人材育成目標の設定

川俣町関係者との連携体制の構築、人材育成目標の設定

2 教育研究プログラムの開発・実施

※座学、演習、フィールドワーク、共同研究、商品開発等の形態で実施

A：農業・食関連

（かわまたジェラート・道の駅用デザート・川俣シャモバーガーの商品開発、未利用花を活用したアクセサリーづくり 等）

B：原子力・除染・リスクコミュニケーション関連

（野生キノコの採取、放射線測定 等）

C：観光関連

（フードツーリズムの開発（キムジャン文化の再現） 等）

D：集落復興・コミュニティ再生関連

（サイクルツーリズムの充実、イベント開催 等）

E：SDGs関連

（SDGs探究授業用のデジタル教材の作成、授業の実施 等）

その他：大学・地域連携学講座（役場職員との勉強会）、町広報誌でのPR、町民向けアンケート調査 等

3 市町村分科会（川俣町の幹事校を担当）

【活動例】



「かわまたジェラート」の商品開発



フードツーリズムの開発（韓国料理ワークショップ）



SDGs探究授業用のデジタル教材の作成

【主な課題】

- コロナ禍における活動展開（訪問、関係者とのやりとり）
- 本PJの周知・認知度向上、関係者のニーズの把握
- 他大学・周辺地域との連携強化 等

3年目（2023年度）の事業内容及び取組の方向性

- 「人材育成目標の見直し」「教育研究プログラムのさらなる開発・実施」「市町村分科会」等を通じて、本PJをより一層進展させていく
- 各重点分野の活動蓄積をもとに、川俣町の地域資源を活用した各種の商品開発やツーリズム開発、SDGs教育、インターンシップ等の活動を深化させることで、多種多様な専門性を有する未来志向の「復興人材」の育成・集積を図る